

雪崩講習(日高登山研修所)の一部紹介

年月日 平成31(2019)年4月6日

場所 北海道山岳連盟 日高登山研修所(日高町千栄)

参加者 澤田、近藤、西田、渡邊、長沼

概要

2019/4/6 日高登山研修所において、『雪崩講習』が開催されました。捜索機器の説明と埋没者捜索・救出について受講しましたので、最近の技法としてお伝えいたします。なお、以下は、捜索機器の説明についておこなっています。

1. 雪崩捜索機器

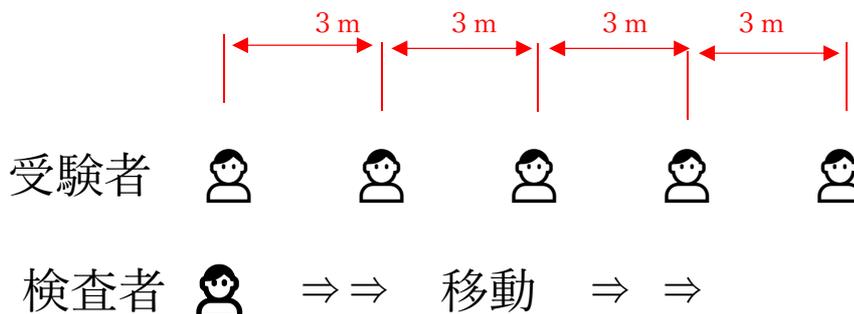
1-1 名称

- ・ビーコンとは呼ばず『アバランチトランシーバー』『雪崩トランシーバー』と呼ぶ。理由として、ビーコンは、発信のみを行う。アバランチトランシーバーは、発信と受信を行う。これからはトランシーバーと呼びたい。
- ・現機器は国際基準に合致しており、お持ちの機器は、スイスでも活躍可能。

1-2 登山前の送受信チェックの方法

(1) 態勢(身構え)

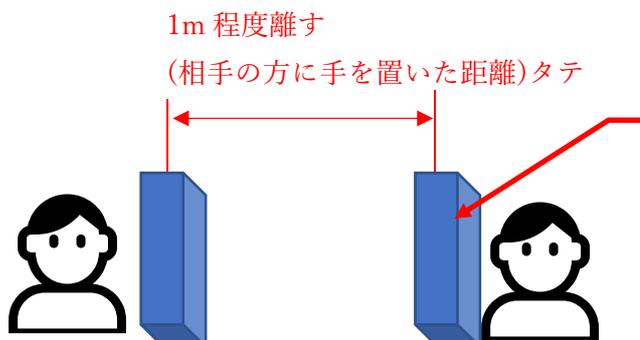
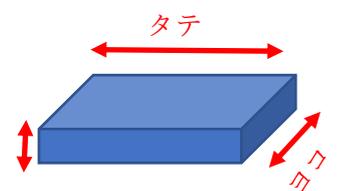
- ・試験時は、隣の電波影響を避けるため、3m程離れる。
- ・検査者は、一人ずつ、下記(2)の手順で試験を実施。



(2)

- ・アバランチトランシーバーは、タテ、横、高さの方向にアンテナを3本装備している。中でも縦方向のアンテナが一番強い。
- ・そこで、チェックの方法は、電波の弱い方法で行う
 - ①相手と1m程の距離を置く(相手の肩に手を置いて行う距離)。
 - ②トランシーバーは立てて行い、液晶画面を相手に向ける。
理由：最も弱い電波で行う。
 - ③液晶画面で距離の確認を行う。表示数値が1.5m以下ならOK。

検査方法



- ①トランシーバーは立てて実施
- ②確認者は、相手の画面(表示数値)を見る。

1-3 電池

アバランチトランシーバーは、進化してきており、電池残量が40パーセントを表示していても機能を発揮する。しかし、活動(持続)時間は短い。やっぱり99%で!

1-4 活動時間をより長く確保するために

アバランチトランシーバーは、アウター(外着)の中で保護する。春山等暑い日は、アウターを着ない時があるが、中着で保護する。

1-5 もし、アバランチトランシーバーを忘れたら(講習では、ありませんでしたが)

昔は、雪崩紐と云って3m位の細紐を腰につけていた。先端は赤ハンカチ。

記 長沼